

全肢連情報

ZENSHIREN BULLETIN

□編集・発行

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会

〒171-0021

東京都豊島区西池袋4丁目3番12号

□Publisher ZENSHIREN

TEL: 03-3971-3666

FAX: 03-3982-2913

E-mail: web-info@zenshiren.or.jp

皆様からのニュースのご提供を
心からお待ちしております。

全肢連情報はホームページ「響(ひびき)」でもご覧になれます。URL: <http://www.zenshiren.or.jp>

SNSで障害児・者、肢体不自由児・者の情報交換を *Facebook* <https://www.facebook.com/ZENSHIREN>

「やまゆり園」再発防止策検討チームを設置～厚生労働省～

7月26日未明に起きた「津久井やまゆり園」の殺傷事件を受け、厚生労働省は8月8日に事件の検証及び再発防止策の協議を進めることを目的とした「相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チーム」(座長: 山本輝之成城大学法学部教授)を設置した。

「検討チーム」の初会合は8月10日に行われ、措置入院や防犯対策のあり方などをテーマに議論。9月8日迄に4回の検討会が開かれ、9月14日に中間の取りまとめが発表された。

なお、防犯体制や措置入院解除などの対応が適切だったかの検証結果を出し、秋を目途に再発防止策の最終取りまとめを発表する予定。

議論が行われた論点は以下の通り。

1. 福祉施設における防犯対策について
 - ・「地域に開かれた施設」と両立する防犯対策のあり方について
2. 精神保健福祉法の措置入院に係る手続について
 - ・緊急措置入院の判断について
 - ・措置入院の判断について
 - ・措置解除の判断について
3. 退院後のフォローアップについて
 - ・退院後の継続的な医療のあり方について
 - ・自治体や地域コミュニティとの連携等について
4. 警察等の関係機関との情報共有のあり方について

▼厚生労働省 中間とりまとめ報告詳細HP▼

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000136814.html>

相模原障害者殺傷事件に対するアピール行動について

全肢連28年度全国大会でも特別決議として採択をいたしました。清水会長をはじめとする呼びかけ人による「相模原障害者殺傷事件に対する緊急行動実行委員会」が立ち上がり、この度「追悼集会」並びに「アピール行動」が行われることとなりました。ご一読いただき、アピールに賛同いただけるようであれば是非ご参加をお願いいたします。

■趣 旨

相模原障害者殺傷事件の容疑者は「障害者はいなくなればいい」と語ったといひます。私たちの住む日本の社会には、障害者はいない方がよいという価値観が依然として根強いのではないのでしょうか。障害者は地域から離され、施設や精神科病院に隔離されるという実態がいまだに続いているのは、その価値観の現れではないのでしょうか。障害者権利条約が求めているように、どんなに重度な障害があっても、人としての尊厳を認められ、地域社会で生活する権利を有し、どこで誰と暮らすかについて選択の機会が保障され、社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に参加する機会が保障されなければなりません。まさにいまこそ、障害の有無によって分け隔てられることのない共生社会の実現を求め、障害者の存在を真っ向から否定するこの価値観に対し、私たち障害当事者から社会にアピールしましょう。

アピールするテーマ

- ①19人ひとり一人に思いを馳せ、追悼する。
- ②「障害者はいなくなればいい」存在ではない。
- ③措置入院の強化、施設や病院の閉鎖性を高めることに抗議する。
- ④障害の有無によって分け隔てられないインクルーシブな社会をつくる。地域生活支援の飛躍的拡充を求める。

■日 時 平成28年9月26日(月)12:00-17:00

■内 容/場 所

*第一部 追悼 12:00-14:30(参議院議員会館講堂(東京都千代田区永田町2-1-1))

- ・「相模原障害者殺傷事件の犠牲者を追悼し、想いを語る会」
- ・追悼、参加者アピール、集会アピール採択等

*第二部 アピール行進 16:00-17:00(日比谷公園⇒東京駅方面・鍛冶橋交差点)

- ・参加者一人ひとりがメッセージを書いたプラカードを持って行進する。
- ・15時45分までには日比谷公園西幸門にお集まりください。

■参加費 無料

■定 員 第一部は300名、第二部は定員無し。

■申込み 第一部は議員会館への入館が必要な為、9月22日(木)までにお申込み下さい。
お申込みは全肢連事務局までお願いします。

<全肢連事務局>

☎03(3971)3666 / FAX:03(3982)2913

☆4つのアピールテーマに沿ったご自身のメッセージをプラカードに書いてお持ちください。

☆力強く生きる、多様性の尊重という趣旨で、可能であれば花（造花などでもいいです）をご持参ください。色とりどり、好きな花をお願いします。白菊以外の花をお願いします。

■呼びかけ人

阿部一彦（日本身体障害者団体連合会会長）、桐原尚之（全国「精神病」者集団運営委員）、久保厚子（全国手をつなぐ育成会連合会会長）、清水誠一（全国肢体不自由児者父母の会連合会会長）、鈴木治郎（神奈川県障害者自立生活支援センター事務局長）、中山千秋（ピープルファーストジャパン代表）、横山晃久（東京都自立生活センター協議会代表）、平下耕三（全国自立生活センター協議会代表）、平野みどり（DPI日本会議議長）、本條義和（全国精神保健福祉連合会理事長）、見形信子（神経筋疾患ネットワーク代表）

【敬称略・五十音順】

■賛同人

浅野宜之（関西大学教授）、池原毅和（弁護士）、一木玲子（大阪経済法科大学客員研究員）、岡部耕典（早稲田大学文化構想学部教授）、川内美彦（東洋大学教授）、金愛子（弁護士）、金昌浩（弁護士）、熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター准教授）、具良鈺（弁護士）、黒寄隆（弁護士）、土井香苗（国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表）、長瀬修（立命館大学教授、国際育成会連盟アジア太平洋代表）、立岩真也（立命館大学教員）、利光恵子（優生手術に対する謝罪を求める会）、西澤希久男（関西大学教授）、野村茂樹（弁護士）、福島智（東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー分野教授、社会福祉法人全国盲ろう者協会理事）、柳原由以（弁護士）

【敬称略・五十音順】（9月7日現在）

■主催 相模原障害者殺傷事件に対する緊急行動実行委員会

～障害児の命の重さ～ 出し合おう私達の想い

相模原殺傷事件をうけて、親、施設の職員や有識者を囲んでみんなで語り合います。
お誘い合わせてぜひご参加ください。

日 時：9月27日(火) 午前10時～

場 所：大津市立障害者福祉センター

問合せ先：滋賀県障害児者と父母の会連合会 事務局 ☎077 (583) 6395

相模原殺傷事件「優生思想の否定を」～障害者団体や学会が訴え～

福祉新聞9月12日号より

神奈川県立の障害者支援施設「津久井やまゆり園」（相模原市）で7月26日未明に起きた殺傷事件をめぐる再発防止の議論に対し、学会や障害者が声を上げている。日本精神神経学会の法委員会は8月29日、精神医療が保安の道具として強化されることへの危惧を表明した。また、精神障害などの当事者団体は同31日、厚生労働省で記者会見し、容疑者の措置入院歴ではなく優生思想に着目して再発防止を議論するよう訴えた。学会と障害者団体が足並みをそろえた格好だ。

事件をめぐるのは、同施設元職員の植松聖容疑者が今年2月に措置入院し約2週間後に退院したこと、重度障害者を冒とくする供述を繰り返していることが事件後の警察発表で分かっている。

これらを踏まえて厚生労働省は8月10日に精神科医らをメンバーとした検討チームで議論を開始。措置入院解除後のフォローを主な論点とし、今秋に再発防止策をまとめることとしている。

こうした動向を踏まえ、同学会法委員会は「精神保健福祉法が患者管理の法律として再強化され、精神医療が特殊な医療へと逆戻りすること、精神障害者差別が助長されることは許されない。今回の事件が措置入院制度の不備で起きたと断ずることはできない」とけん制した。

措置入院患者の退院後の支援体制が不十分だとされる点については「異論はない」としたが、退院後の強制通院制度導入を提起する意見には「断固反対する」とした。

31日の記者会見には全国「精神病」者集団、DPI日本会議など障害当事者団体の関係者が出席し、「今回の事件は容疑者の優生思想に基づくものだ。その思想を否定しないと同様の事件が起こる」と警告した。

また、再発防止策として厚労省が措置入院解除後のことを議論している点については「精神障害者が危険だとアピールすることになる」と批判した。一行は会見後に厚労省前でピラを配り、こうした主張を訴えた。

なお、知的障害者で構成する「ピープルファースト」は9月21日午後1時から、横浜市の大榎橋ホールで開く大会で事件の犠牲者を追悼する。犠牲者が匿名とされていること、同施設が山奥にあることなどを話し合う。

問い合わせは、ピープルファースト横浜（電話045-382-3055・045-370-3340）へ。

相模原殺傷事件 関係者の精神的ケア優先、施設建て替えへ

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で入居者19人が刺殺された事件で、施設を建て替える方針を示した黒岩祐治知事は12日、入居者の家族会から「『職員の方のために建て替えをしてほしい』という声が多くあった」とし、関係者の精神的ケアを優先した上での考えだったことを明かした。

黒岩知事は同日の県議会本会議終了後、報道陣の取材に応じ、「職員は通常通りのケアを継続しようと一生懸命対応しているが、今の環境のままその頑張りを持続してもらうことは難しいと思う」と述べた。

家族会は11日に会合を開き、建て替えを求める方針を決定。関係者によると、家族会のアンケートでは回答者のうち9割弱が建て替えを希望。家族会が県に提出した要望書にも「改修によりいかにホーム内を変えても、同じ居室のドアを開けての支援はつらいという職員の声を聴くと、他に道はない」と明記されており、「このような惨事を二度と起こさないため、県の宝ともいえる施設職員を孤立させない相談・支援の仕組みが必要」と強調されていた。

県は9月中旬に黒岩知事を本部長とする再発防止対策本部で今後の大まかな方針を決定し、その後、県議会定例会に補正予算案を提出する方針。

建て替えが正式決定した後、工期や工費などを具体的に検討していくことになるが、その中で最大の課題となるのが工事期間中の入居者の滞在先だ。黒岩知事は「(滞在先を)できるだけ近く、(建て替えを)一日でも早くという希望に応える形で進めたい」と強調した。

工費については、「相模原で起きた事件ではあるが、国の問題として受け止めてほしい」と述べ、国への支援要請も検討するとした。

1億総活躍へ2次補正 ～障害者福祉の整備、防犯対策も～

福祉新聞9月5日号より

政府は8月24日、インフラ整備や1億総活躍社会の実現加速などの施策を盛り込んだ2016年度第二次補正予算案を閣議決定した。一般会計の歳出額は3兆3,000億円。厚生労働省は1億総活躍社会関連で4,477億円を計上し、そのうち障害者福祉サービスの基盤整備や防犯対策に118億円を盛り込んだ。政府は9月26日召集予定の臨時国会に補正予算を提出し、早期成立を目指す。

8月2日に閣議決定した経済対策の第一弾と位置付ける。経済対策は保育士、介護人材を確保するための処遇改善が柱。安倍晋三首相は6月に消費税率引き上げ再延期を表明した際、アベノミクスを加速させるため経済対策を打つとしていた。

しかし、第二次補正予算で人材の処遇改善に直接結びつくものは見当たらない。

厚生労働省は障害福祉サービスのグループホーム、就労支援事業所の整備費用を補助する。神奈川県立の障害者支援施設「津久井やまゆり園」(相模原市)で発生した入所者の殺傷事件を受け、防犯対策も強化する。障害者(児)施設の非常通報装置や防犯カメラ、フェンスの設置・修繕費のうち国が半分を補正し、残りを自治体と施設が折半する。

介護保険関連では、介護保険料の上昇を回避するため、財政安定化基金（都道府県に設置）の特例的な積み増しを補助する。

政府は17年度に介護人材の処遇改善を図る意向だが、介護報酬を上げれば市町村の見込みよりも給付費が増える。給付費が増えると介護保険料も上がるが、見込みを超えた給付費を同基金で補てんすることで保険料が上がらないようにする。積み増しの補助分として20億円を計上した。

また、一度介護の仕事から離れた人を呼び戻すための再就職準備金貸付事業は、特に人材確保が困難な地域に限り、準備金の上限(20万円)を倍増する。その原資として10億円を計上した。

このほか、保育所の整備や防犯対策に427億円、保育士の再就職準備金貸付事業の拡充に112億円、児童養護施設の小規模化や防犯対策に70億円を計上した。

内閣府は地方創生に取り組む自治体を支援する「地方創生推進交付金(新型交付金)」900億円を計上した。新たな使途として、地方に移住した元気な高齢者の受け皿となる地方共同体「生涯活躍のまち」の施設整備などを想定する。

政府は第二次補正予算の財源として、公共事業などに使途を限った建設国債を2兆7,500億円発行する。

リオ2016・パラリンピック競技大会

現地時間9月12日、水泳・木村敬一選手は自由形50m(S11)、ボッチャ混合団体(BC1-2)は銀メダル、陸上競技・4×100mリレーでは、芦田創選手、佐藤圭太選手、多川知希選手、山本篤選手の順番につなぎ、見事に銅メダルを獲得しました。

大会もこれから後半戦。勢いを増す日本選手の活躍に目が離せません。

*日本代表選手団の活躍は以下の特設サイトをご覧ください。

<リオパラリンピック特設サイト>

<http://www.jsad.or.jp/paralympic/rio/>

◇フォトギャラリーはコチラ(連日更新中!) ↓

<http://www.jsad.or.jp/paralympic/rio/info/gallery.html>

◇スケジュール・結果はコチラ ↓

<http://www.jsad.or.jp/paralympic/rio/info/schedule.html>

第24回全国障がい者馬術大会のお知らせ

- ・開催日：平成28年10月28日(金)～30日(日)
- ・会場：三木ホースランドパーク
兵庫県三木市別所町高木
☎:0794(83)8110 FAX:0794(83)8081
- ・主催：一般社団法人日本障がい者乗馬協会
- ・問合せ先：第24回全国障がい者馬術大会 実行委員会

〒673-0435

兵庫県明石市大久保町松陰1126 明石乗馬協会内

☎：078(935) 8900 FAX:078(935)8950

E-mail：info@jrad.jp

*競技会以外にもアトラクションや無料乗馬体験、無料馬車、馬具屋さん、軽食の出店もあります。遊びにいらしてはいかがでしょうか。

ブロック大会・開催速報

「第30回全道肢体不自由児者福祉大会・帯広大会」

◇日 時：平成28年9月3日(土)～4日(日) 1日目：午後1時～6時

2日目：午前9時～12時30分

◇会 場：とかちプラザ

◇大会テーマ『永年の課題を解決し、誰もが安心できる生活を』

◇全大会：<提言1>帯広肢体不自由児者こまどり父母の会 加藤 孝氏

「障害者にも仕事を！」

<提言2>釧路市肢体不自由児者父母の会 森 武人氏

「グループホーム・ショートステイ等について！」

<提言3>根室肢体不自由児者父母の会 小沼 ゆみ氏

◇分科会：第一分科会「福祉」

第二分科会「教育」

◇記念講演：「馬が紡ぐ幸せ～北海道開拓と馬文化～」

講師 NPO法人とかち馬文化を支える会 専務理事 旋丸 巴氏

◇特別公演：「シーティングで変わる障害児者の未来」～機能性二次障害防止に向けて～

講師 (株)アクセスインターナショナル 代表 山崎 泰広氏

「第36回東北ブロック大会・秋田大会」

◇日 時：平成28年9月10日(土)～11日(日) 1日目：午前11時～5時

◇会 場：あきた芸術村 温泉ゆほぼ

◇大会テーマ：『地域社会で、幸せに暮らしていくために』

◇講 演：「温故知新」で今後を考える

社会福祉法人秋田希望福祉会 理事長 菅原 三朗氏

「相談支援事業と相談支援専門員の活用について」

社会福祉法人秋田育明会竹生寮 相談支援専門員 斎藤 雅和氏

北海道ブロック地域指導者育成セミナーを開催

開催日：平成28年8月20日(土)～21日(日)

会場：かでの2.7

テーマ：肢体不自由児者の合理的配慮に基づく「防災、減災の取り組み」

◇主な進行内容

<1日目>

①講演：「災害時要支援に対する防災、減災について」渡辺 日出夫氏

②グループ討議・あなたのまちの防災計画

- ・避難所(福祉的避難所)を利用するにあたっての課題
- ・地震(他の災害も)備えて準備している事、減災のヒント
- ・東日本大震災を体験して
- ・基調報告(講演を聞いて)の感想

③質疑応答

<2日目>

①講演：「福祉避難所について」北海道保健福祉局障がい者保健福祉課 加藤 直樹氏

②意見交換

③グループ討議・平成28年度に改正された「防災基本計画」が要配慮者(災害時要支援者)に対して、より良い指針となるよう、どのような合理的配慮が定められると良いか。

避難所に対する要望、地域での自主防災、平時の関わり、障害者に対する具体的な事柄など

・在宅で避難する際の支援の仕組み

こんな支援があったら、備蓄のあれこれ、障害者のいる家庭での準備、ヒントなど

③質疑応答

*熊本地震義援金 受領のご報告

このたびは、熊本地震義援金を賜り誠にありがとうございました。

皆様方の暖かいご支援に心より厚く御礼申し上げます。

※ご送金いただきました御名義で掲載しております。

公益社団法人京都市身体障害児者父母の会連合会様

9月9日

¥3,000-

訂正のお願い

全肢連情報vol.623掲載の義援金受領のご報告について、下記の通り御名義を訂正します。

(訂正前) 箕輪市肢体不自由児者父母の会 榎原淳子様

↓

(訂正後) 箕面市肢体不自由児者父母の会 榎原淳子様